

大河内の神楽は最高だ！

大河内小 5年 椎葉 心祥

ぼくたちの地域では、十一月から十二月まで神楽の練習があります。たくさん神楽の舞い方はありますが、ぼくたちは神楽の基本となる「花の手」というのを舞います。本番では地域の神社に行き、その神楽を夜十時に踊ります。正直眠いけど、みんなで踊りはじめると、なんだか不思議な気持ちになり、眠気が吹き飛びます。また、神楽の本番後には、おいしい料理がでてきます。その中でも、ぼくのおすすめは、地域でとれた「しし肉」です。みんなで踊る神楽、神楽の後にみんなで食べる郷土料理、大河内の神楽は最高です。

大河内小の良いところ

大河内小 5年 椎葉 琉生

大河内小では、毎年行う楽しい行事が3つあります。

一つ目は、「米作り」です。大河内小学校の近くには、学校の田んぼがあります。そこで5月から11月にかけて田植えや稲刈り、だっこくを地域の人たちに教えてもらいながら、米作りを行います。時には、みんなで草抜きをしたり、水が汚れていないかお世話をしたりしています。育てるお米は、もち米で、12月にある持久走大会の後に地域の人と、もち米をついて食べます。自分たちで育てて作ったお餅はとてもおいしいです。

二つ目は、「臼太鼓」です。臼太鼓は、大河内の大切な伝統文化です。ぼくたちは、その臼太鼓を運動会のときに披露します。毎年7月から運動会までに、地域の人に教えてもらいながら、たくさん練習をします。臼太鼓は太鼓や鐘を使って演奏します。二つの楽器のタイミングを合わせて演奏するのは、本当に難しいです。でも、本番にミスしないでみんなでできた時の達成感や、拍手をもらった時のうれしい気持ちは忘れられません。

三つ目は、クラブの時間である「魚つり」です。大河内小の近くには一つ瀬川が流れています。そこで、中学生年から高学年でつりをします。えさを自分で針にさし、魚がいそうなところに落とします。なかなか釣れない時は、川の中の様子を見て、釣れるように工夫をします。じっと待って、ヤマメがつれたときにはとてもうれしいです。

大河内では、自然豊かなところで、楽しいことやいろいろな体験ができます。そんな大河内が大好きです。

大河内の自然と伝統

大河内小 6年 岩崎 結斗

大河内のじまんを二つ紹介します。

大河内小学校では、毎年みんなでクラブの時間に「釣り」をします。大河内の近くには川があって、川の水は川の底まで見えるくらいきれいです。一番の大物はヤマメです。ヤマメを釣り上げた時はとてもうれしかったです。ぼくは、今年は釣れなかったけど、とても良い思い出になりました。そんな活動ができるのも、大河内が豊かな自然に囲まれていることと、それをきれいに保っている地域の人のおかげだと思います。大河内の自然と地域の人たちに感謝したいです。また、自分もその大河内の自然を守っていく一人になりたいです。

次に、大河内の伝統です。毎年伝統行事はたくさんありますが、特に代表的なのは大河内神楽です。大河内神楽は子どもも参加します。子どもは、「花の手」や「大神」、「みくま」などの型を舞います。2学期から週に1回練習が始まり、本番が近づく十一月くらいになると、週に二回練習をします。本番は八幡神社で舞います。舞う時はとても緊張するけれど、終わったときはとてもうれしい気持ちになります。この大河内神楽は約四百年の長い間受け継がれてきています。その伝統を守っていきたいので、僕たちも一生懸命舞って、後輩たちにも教えていきたいと思います。